

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部		
	課名	健康増進センター		
	係名	健康増進係		
	記入者		電話(内線)	32-7890

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	ウォーキング推進事業		(3) 事業の 優先度	B
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体		市
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	11101	(総合計画掲載 ^ハ -ゾ ^ニ 49 ^ハ -ゾ ^ニ)			会計区分	一般会計
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)				財源区分	市単独
基本施策	1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実(健康・医療)				予算科目	款 4 項 1 目 3
施策	①健康づくりの推進				予算書上の 事業名称	運動普及推進事業費 (予算書 101 ^ハ -ゾ ^ニ に掲載)
施策内容	1健康づくり活動の推進					
(5) 事業期間	開始	平成 18 年 4 月から		(8) 事務分類	自治事務	
	終了	年 月まで (力年)		根拠法令	健康増進法	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	20歳以上の市民	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)	手軽にできる有酸素運動であるウォーキングを日常生活に取り入れ心身の健康を維持できる。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	心身の健康づくりのためウォーキングを推進する。 ①ウォーキングイベント(講演会・ウォーキング)の実施 ②ヘルスロードの活動推進	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	平成15年に健康増進法が施行され、市町村に健康づくりへの多様な対策が求められるようになった。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応			
茨城県では、県民が家庭、地域、職域において家族や仲間とウォーキングを行い、健康増進にチャレンジすることを目的として「いばらきヘルスロード」を265コース指定している(平成26年3月末現在、結城市は3コース認定)			

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳	事業内容	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)			
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費						
	報償費	30	33				
	需用費	2	3				
	使用料及び賃借料	17	28				
	工事請負費	152					
	合計	201	64				
財源	国庫支出金 (千円)						
	県支出金 (千円)						
	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	201	64				
	合計 (千円)	201	64				
補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	ウォーキングイベントの開催	目標値	回		1	1	1
		実績(見込)値		1	1		
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	ウォーキングイベント参加者数	目標値	人		50	100	150
		実績(見込)値		54	50	100	150
		達成率		30.0 %	27.8 %		
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	B	どちらとも言えない	手軽にできる有酸素運動であり、市民の健康づくりに必要である
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市民の健康づくりの支援のために自治体が行うべきである。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的であり、妥当である。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	効果的に実施するため、定員を設けた。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	27年度は参加者を男性のみと限定した。
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者の満足度は高い
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	参加者はすでにウォーキングが習慣づいている方も多い

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

ウォーキングイベントは参加者に好評である。リピーターもおり、市民に定着しつつある。しかし、30～40歳代の若い世代の参加者が少ない現状にある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

若い世代が参加しやすいような企画を検討する必要がある。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	若い世代が参加しやすいように日程や会場を検討し、参加人数の増加を図る。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。